

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市岩切児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
4 施設の利用状況	《利用数》 令和6年度 40,257人(前年度比 109.6%) 令和5年度 36,746人 令和4年度 30,044人 《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 - 指定管理者に支払った費用 88,099千円(80,133千円) - その他市が負担した費用 0千円(0千円) 《収入》 - 使用料収入 0千円(0千円) - その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、Facebookの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、様々な地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。 なお毎月、児童館とサテライト①②の児童クラブ毎にお便りを発行している。写真やコメントで活動の様子を伝えたり、お便りのタイトルやコメントを子ども達が担当する等こどもの主体性を育むと共に、多様な視点で児童の様子や成長を保護者と共有できるよう努めている。	19/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘）による自己評価》
「児童館の特性を生かしながら運営をどう行か」をテーマに、スタッフ全員で考え運営を行ってきた。 ○児童健全育成事業 こどもの居場所をどうつくっていくか考え、流動的に対応した。児童館での遊びのなかでこどもたちが感じ、考え、学べることができるよう、日常的な遊びや関わりの中での出来事を共有する機会を増やした。こどもたちを取り巻く現状と課題についても検討し、体験活動を増やす事業や、想像力、創造力に特化した遊びを取り入れた事業を行った。 ○子育て家庭支援事業 児童民生委員さんやいわき子育てネットワークのメンバーと積極的な情報共有に努め地域全体で子育て支援について検討し、共催事業を行った。また、児童館に来館した保護者には、ゆっくり過ごしてもらえるように、こども達の様子と一緒に見守りながら、保護者とのコミュニケーションを図ってきた。密にコミュニケーションを取ることで保護者が求めていることや育児の悩みなどを事業に活かすことができた。 ○地域交流推進事業 こどもたちの為に、地域の為に何ができるか模索し、情報交換する会議を行った。自分たちの足で出向いて「緑寿屋さんに行こう！」や「消防署までのお散歩」だけでなく、地域の様々な名人を児童館に招いて「WAZAJまん大会」にてマジックショーへの出演や駐在所の方やSBLの方を招いての防犯、防災講座の開催を行った。 ○放課後児童健全育成事業 様々なストレスを抱えたこどもたちの日常生活のなかで、登録児童数も多くなり、遊びの工夫が必要な場面が多かった。課題が見つかる度にスタッフ全員で解決に向け定期的に見直し、検討を行った。各々のスキルアップと共に、こどもたち一人ひとりの好きな遊びにクローズアップし、一つの遊びから派生した遊びや、遊びの展開ができるような環境を作った。遊びを通して感じたこどもの成長を、保護者とも頻繁に共有し一緒に成長を喜んだ。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、高学年の小学生や中高生が行事の準備や運営に携わる「こどもボランティア」や、中学生以上を対象に「児童館お泊り会」や「お茶会」などを実施している。中高生の定期的な利用があり、小学生と交流が見られ、中高生の居場所や仲間作りの場を提供すると共に、様々な経験を通して社会性や主体性、自己肯定感を育んでいる。 子育て家庭支援事業においては、登録制の幼児クラブ「はいはい」「とことこ」や乳幼児親子向けの行事を定期的に行い、多くの親子が参加している。水遊びや絵の具遊び、運動遊びなど、多彩なプログラムを提供し、こども達の興味関心を引き出して楽しみながら様々な経験が出来るように工夫している。また児童館便りに乳幼児親子向けの地域の子育てネットワーク情報を毎月掲載したり、「防災講座」や「はっぴいママカフェ」などの育児講座を実施するなど、地域の関係機関と積極的に連携しながら子育て家庭を支援している。 地域交流推進事業においては、こども達が日頃から楽しんでいるダンスを市民祭りや町内の敬老会などで披露する機会を多く持った。地域の方々との交流を深め、こどもの意欲や自主性を育む取り組みを行うと共に、こども達が地域と密接に関わりを持ちながら育つ環境作りに努めている。 放課後児童健全育成事業においては、こどもが自ら遊びや生活の流れを組み立てられるよう折々に工夫したり改善しながら、こども一人一人が安心して過ごしたり主体的に活動できるよう環境を整えている。集団活動を通して、また、こどもの迎え時や毎月発行している児童クラブ便りを通して、こどもの様子や成長を保護者と共有している。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課